

# 縁の下の

# 力もち



音楽には  
すごい力があります。  
将来、子どもの才能を  
育てる事業も  
したいです。

かどち ひろみ  
角口裕美さん

京都生まれ。嵯峨美術短大で染織を学び、20歳で友洋の世界に入り、着物販売担当として全国行脚した。その頃、祇園のライブハウスで、音楽好き同士が肩書抜きで付き合う楽しさを知る。母親が町家カフェ経営を目指したのをきっかけに、2005年にライブハウス「モダン・タイムス」を開店。音楽で人と人をつなげる思いを実現している。



角口さんが企画する手話唄を始め、マイノリティーの人の心を伝える作品も多数。写真は本格的な喜劇で人気の「Moon light Club」のワンシーン。  
(撮影 Yasuko Yamada)



「ライブ中、演者はもちろん、お客様の表情を見るのが楽しく、泣いている人を見て、もらい泣きすることもよくあります。」と角口さん。

普通のライブハウスではミュージシャンが主役でお客様は脇役だ。しかしオーナーの角口裕美さんは「うちの店は、お客様が主役。お客さんを育てたい」と話す。そう考えるようになったのは、20代の頃に通った祇園のライブハウスでの経験が大きい。大企業の社長もフリーターも、音楽好きなら肩書抜きで対等に交歓できる楽しさを知った。ライブハウスの主役は客であり、ライブハウスは音楽を楽しむ常設の社交場。そんな文化を育てたいと

思った。その一方で、「やりたければ、とことうやたらいいでも演奏者の自己満足はダメ」と、角口さんは、若手ミュージシャンにアドバイスを送る。コール&レスポンスによる相乗効果こそがライブの醍醐味。観客と演者のあいだを「スクリーン」が隔てるようなライブを最も懸念する。角口さんは音楽好きとして、客席からの見え方と感想を伝える。来客の増減の理由も若手ミュージシャンに分析させる。「モダン・タイムス」は単なるミュージシャンの活動の場ではない。演奏者と聴く人を育てる場所なのだ。ライブハウスの魅力を熟知する角口さんの揺るぎない信念が、見えないうちで京都の音楽文化に貢献している。

音楽を通して観客もミュージシャンも育て、  
京都の音楽文化を支えるライブハウス

Tomorrow's solutions, today



はたらきを化学する。

## 私も力もちです

京都の音楽文化を育てるモダン・タイムス同様、三洋化成は機能化学品を通じて、暮らしや産業のさまざまな分野を支えています。

三洋化成工業株式会社

◎京都市東山区一橋野本町1-1  
もよりバス停は「泉涌寺道」

Twitter 始めました

@sanyochemical

当社は今年70周年

4月1日より、社章とロゴを  
新しくしました。


**三洋化成**  
 Sanyo Chemical